

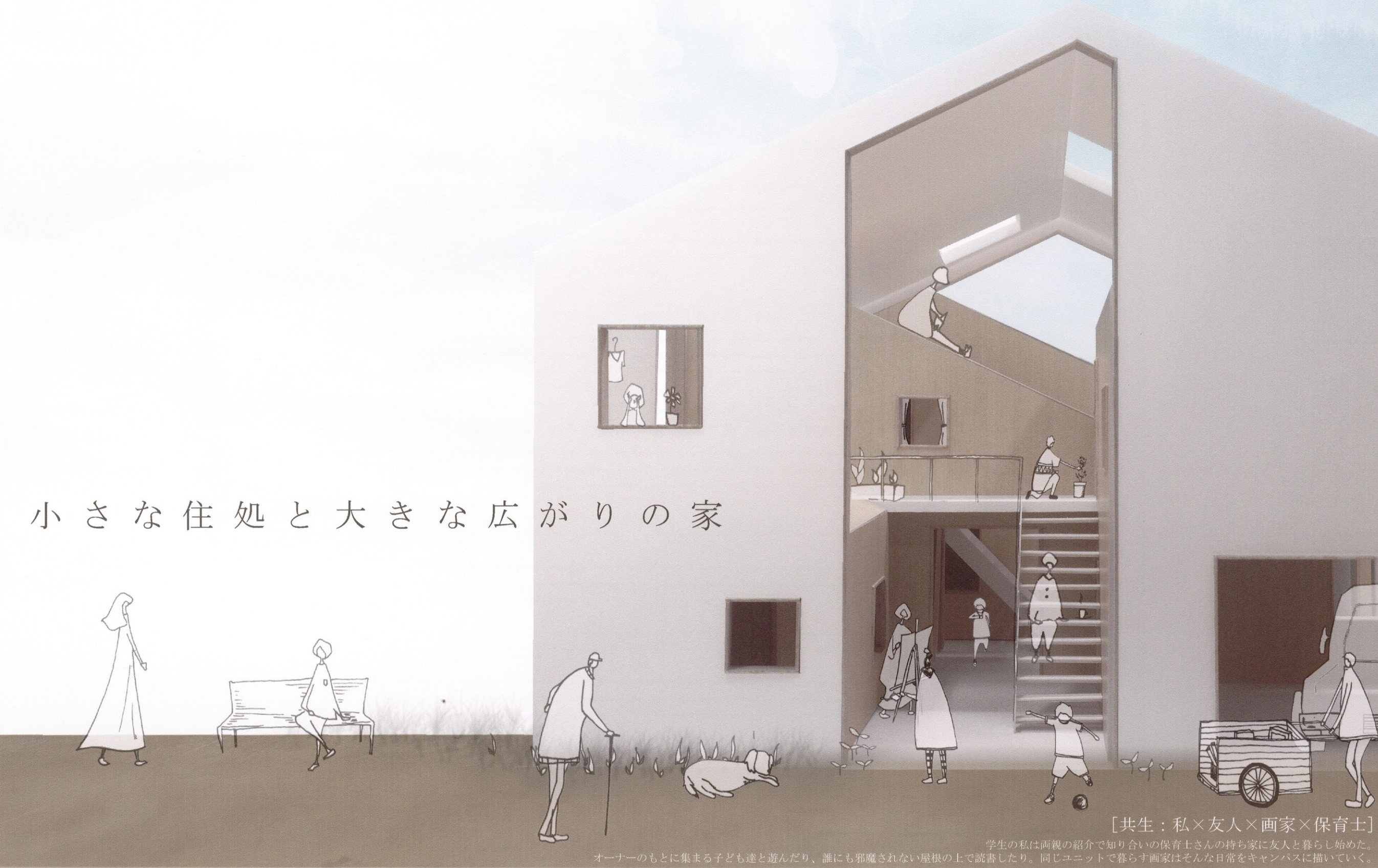
戦後大量供給されてきた戸建住宅。

それは多くの人々に夢のマイホームを提供してきた一方で、

「戸建住宅=核家族」という孤立した住まい方の形態が大衆化してしまった。

住まい方が多様化し、家族間や地域との関係が希薄化する現代の日本社会に、

新たな共生形態を生む家を提案する。



## 小さな住処と大きな広がりの家

[共生：私×友人×画家×保育士]

学生の私は両親の紹介で知り合いの保育士さんの持ち家に友人と暮らし始めた。オーナーのもとに集まる子ども達と遊んだり、誰にも邪魔されない屋根の上で読書したり。同じユニットで暮らす画家はそんな日常をキャンパスに描いていく。



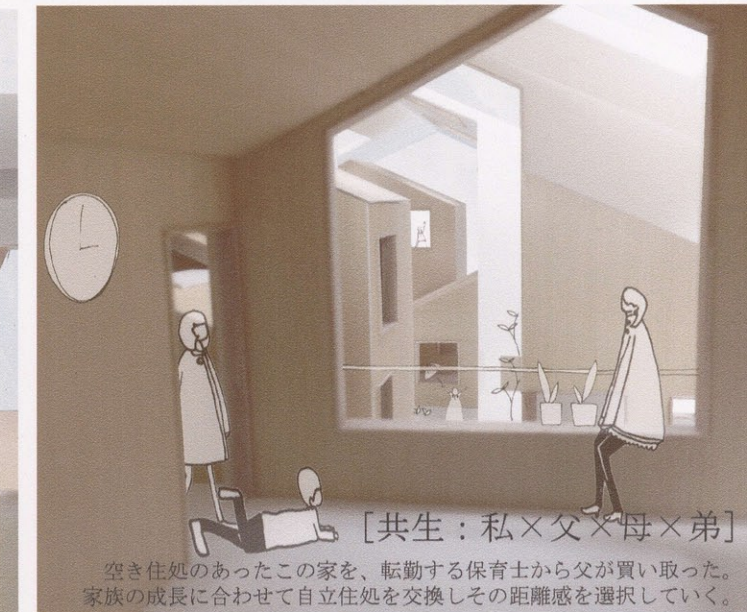
[共生：私×地域]

この家の生活はユニット内ばかりでなく、窓の外の世界にも広がっていた。すぐ近くには読書仲間がいるし、もう少し先には歩いて行くとても腕のいいシェフが料理をおしえてくれる。私の生活は地域と共にあることを感じた。



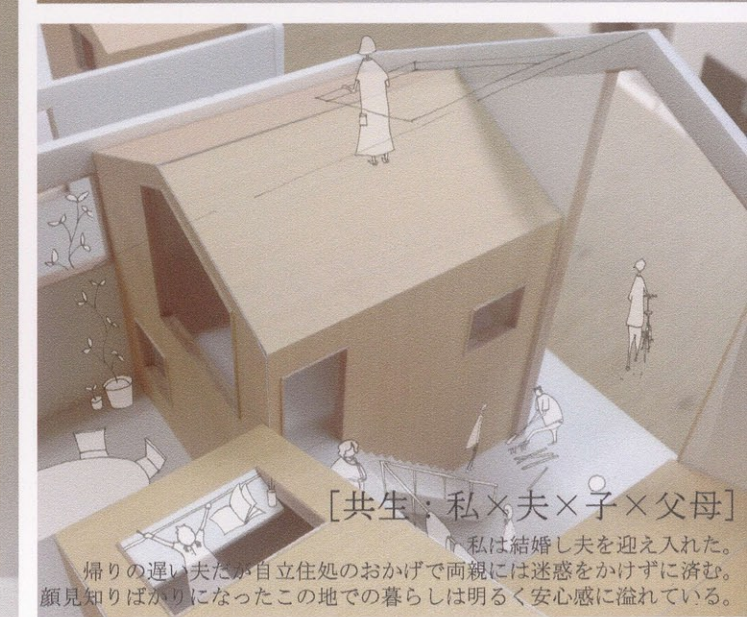
[共生：私×デザイナー]

ある日画家がアトリエを構えた。所員との会議内容は私に刺激を与えてくれるが、彼にとっては様々な人の時間が流れるこの住まいこそが、新たな創造の源のようなのだ。



[共生：私×父×母×弟]

空き住処のあったこの家を、転勤する保育士から父が買い取った。家族の成長に合わせて自立住処を交換しその距離感を選択していく。

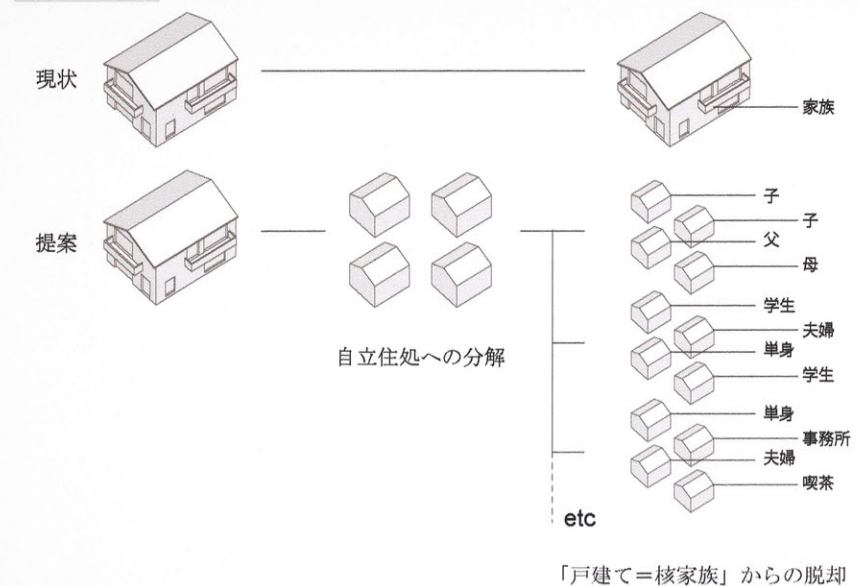


[共生：私×夫×子×父母]

私は結婚し夫を迎え入れた。掃りの運い夫が自立住処のおかげで両親には迷惑をかけずに済む。顔見知りばかりになったこの地での暮らしは明るく安心感に溢れている。

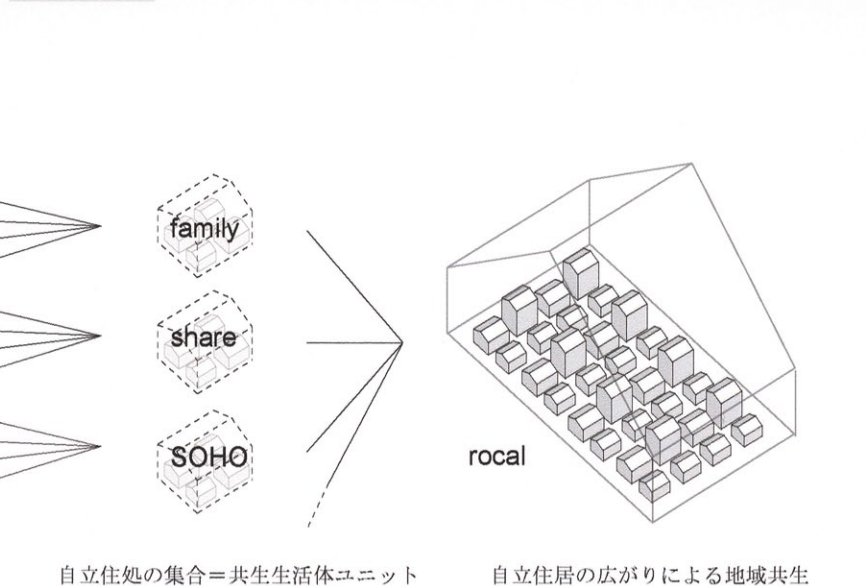
### 解体

形骸化した戸建住宅からの個人の解放



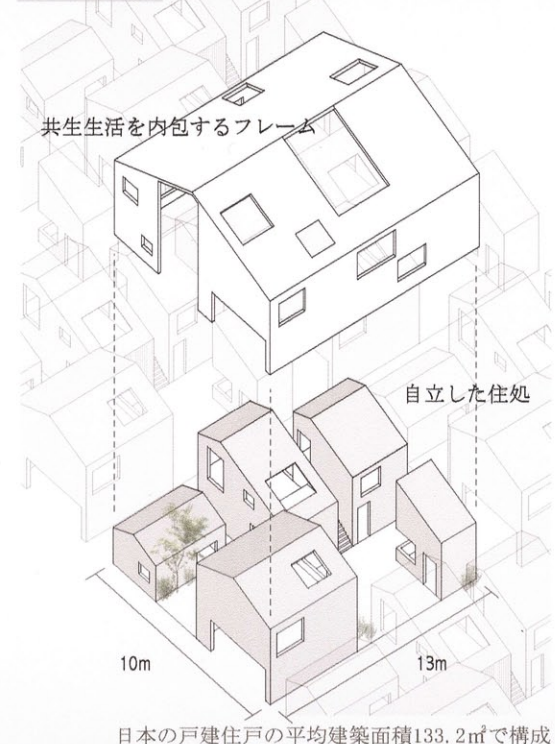
### 再構築

自立住処 < 共生生活ユニット < 地域共生



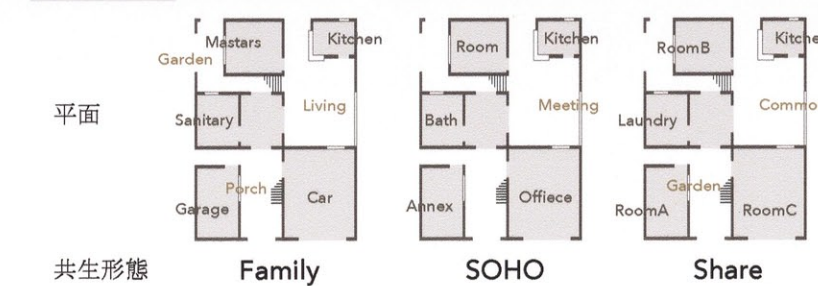
### 構成

ユニットサンプル



### 可変性

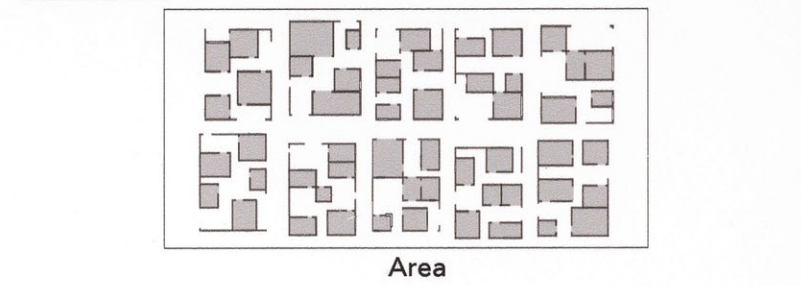
多様化する住まい方への対応



自立住処による集合はユニットの住環境に可変性をもたせ、様々な共生形態に対応し、そのユニットの個性が街並をつくっていく。

### 連続

地域へと広がるコミュニティ



### 関係性

微気候空間がバッファーとなり多様な住空間を生み出す断面構成



自立住処とユニットの間に生まれる微気候空間は、家族、隣人、都市、自然、時間など様々なモノとモノの繋がり方を操作する。

## [自立]

戸建住宅=核家族という枠組みから個人を解放し、

## [共生]

共生生活体と共に地域という大きな広がりて暮らす。